



カーネギー平和宮
100周年記念事業に参加して

磯江 公博

カーネギー平和宮 100周年記念事業に参加

国連の国際司法裁判所本部があるハーグには「平和宮 (Peace Palace)」がある。これは世界平和、国際司法、戦争廃絶に貢献する重要な施設で、アンドリュー・カーネギーの寄贈によるものである。(1913年完成)

平和宮の主な平和事業は

- ①カーネギーのように著名な人物はもとより無名の平和慈善家を称える
- ②ピースメーカーの業績を称え世に知らしめるノーベル平和賞等の創設
- ③記念碑・記念物等の建立を通じて平和を顕彰する

平和宮100周年記念事業の内容は

- ①ベルタ・フォン・ズットナー(女性初のノーベル平和賞受賞)の活動紹介
- ②過去100年間での世界平和に貢献した20人の実業家のパネル展示
- ③ベルタ・フォン・ズットナー胸像の除幕式
- ④平和宮での晩餐会

①ベルタ・フォン・ズットナーの活動紹介 (女性初のノーベル平和賞受賞)

アルフレッド・ノーベルの秘書兼家政婦で個人的関係が強く、平和の取り組みで平和会議や講演、出版などを主体にオーストリア平和の友の会を設立、1894年に小説「武器を捨てよ」を発表し、国際的平和活動の先駆者となる。

一方、ノーベルは国家間の安全保障条約の締結や国連のような組織を目指し彼女とは対立もあったが、ノーベル賞の平和部門が創設されたのは彼女の影響が強いといわれている。

1905年に女性初、ノーベル平和賞を受賞。「武器を捨てよ」は1914年に映画化されている。



ベルタ・フォン・ズットナーは、2008年ヨーロッパ・ターラーというコレクターのための高額コインの図柄に選ばれました。

このコインの裏面には、彼女を含め、ヨーロッパ史上重要な人物が描かれています。またオーストリアの2ユーロ硬貨とオーストリアの古い1000シリング札にも採用されていました。2005年発行のドイツの記念切手にも使われています。



②過去100年間での世界平和に貢献した20人の実業家のパネル展示

【小松昭夫 パネル紹介】

日本人実業家で、1973年小松電器産業を設立、シートシャッター「門番」とクラウド総合水管理システム「やくも水神」の二つの新産業を興した。1944年人間自然科学研究所財団を設立、平和の事業化活動を始め。戦後責任を自覚、生命・人類の特性・世界にの視点で「民間外交」を展開、世界の戦争と平和記念館を訪問、追悼・献花・寄付を続けている。核大国の中国、米国、露国の影響下にある朝鮮半島と日本列島から世界平和の礎を築くために人道主義的実践はきわめて意義深い。

(中略)

ベルタ・フォン・ズットナーの顕彰に努力する日本人の中心人物の一人でもある。

(20人の参考: アンドリュー・カーネギー、アルフレッド・ノーベル、ビルゲイツ、ミランダ・ゲイツ等)



③ベルタ・フォン・ズットナー胸像の除幕式

平和宮100年イベントでは、老年期のズットナー女史の胸像と、青春期の2体が製作され、老年期とされる胸像は平和宮の中に設置され、彫刻家イングリッド・ロレマさんが製作した青春期の胸像は、多くの市民や平和活動家の目に触れやすいハーグ市役所広場に設置された。

成年期に平和について志を抱き、老年期に平和活動の実践をしたとされる二つの胸像。この胸像が一對になって世界平和に大きなインパクトを与えることだろう。



④ 平和宮での晩餐会

全員が正装し1800年代に建築され、現在も国会関係機関として利用されている宮殿での晩餐会に出席した。先ずは晩餐会開催まで立食でのパーティー。生演奏が流れる中、会話が弾む。約2時間後、国会会館「騎士会館」での晩餐会が始まる。会場は国王、王女の指定席がある歴史ある大ホール。

晩餐会の料理は1899年の第1回ハーグ平和会議で提供された料理とほぼ同じメニューになっている。晩餐会のテーマは「平和」である。「ハーグ平和宣言」の会長コーラ・ワイス氏、国連連合基金のジリアン・ソレンセン氏、アンドリュー・カーネギーのひ孫ウィリアム・トムソン氏がスピーチ。8時から始まり12時まで続く。スピーチあり、ダンスあり、演奏あり、そしてドネーション。



翌年・平和博物館オープニングセレモニー参加

オーストリア・ウィーン市で7年前から検討されていた平和博物館構想が具現化、平和宮100周年事業で製作されたズットナー女史の2号像を小松氏が制作したことを知った平和博物館長リシュカ・ブロゲットさんから、是非、平和博物館の中心モニュメントとしてしばらく2号像をお借りしたいとの要請が来た。

この要請を快く受諾した小松理事長と共に、平和博物館の開館記念事業に参加した。

ユニークな平和博物館

平和博物館はウィーン市の中心地シュテファン大聖堂の直ぐ横に位置し、100メートル四方のエリアを博物館エリアとして、通りの窓を平和に貢献した人物の写真と活動内容を紹介した展示となっている。中心となるウィーン平和博物館の館内には、ガンジー、ベルタ・フォン・ズットナー、アインシュタイン、ジョンレノン等の活動家の抽象画を集め展示されている。

また、平和活動家の抽象画を中心に「平和の窓の小路」と称した路地の建物の窓におよそ150箇所展示があり、一つの窓は年間約30万円で借り上げ、平和に貢献した人物の写真とその活動記録を展示している。その資金は寄付によって賄うのである。

散策しながら、平和の志に共感する小路である。中国の碑林に似た発想で、日本のように、博物館とは箱物建設から始まるといった常識が、ここの人たちには通じない。自分たちで出来る平和活動が原点にあるため、行政に頼らなくても本来の目的「平和を考え、実践する」人たちの発想から生まれたウィーン平和博物館構想に学ぶところがあまりにも大きい。

ズットナー像の搬入の様子



街全体が平和博物館



オープンセレモニー



記念講演でスピーチ

「100年以上前に世界大戦の勃発を予測し、小説『武器を捨てよ!』で戦争阻止を世界に訴え、欧米を中心に平和活動を展開し、ノーベルに平和賞創設を進言、女性初のノーベル平和賞（5番目）を受賞したベルタ・フォン・ズットナー女史を平和の偉人とし、この志を現代に蘇らせることが、私たちに求められています」と明言。この大会で平和大賞を受賞。



ズットナー像には多くの見学者

